

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

### 【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	太陽光発電のパワーコンディショナーから火花が散った事案の調査活動で感電の恐れがあったもの
3. 体験した事例の中心的要素	調査出動であったため、通常の火災対応装備(耐電装備なし)で出動した。 現着後、家人から2台設置されているパワーコンディショナーのうち1台から火花と煙が出たと録取した。隊長はパワーコンディショナーの状況を確認後、家人に設置業者に連絡するよう依頼したが不通、取扱説明書もなかったため、通信指令室にパワーコンディショナーの型式を連絡し取扱説明書を手配するように依頼するとともに、耐電手袋、検電器を現場に要請した。同時に、機関員と隊員でその他の箇所の延焼・損傷状況を確認していたところ、浴室の天井裏の配線を接続箱からの直流配線と知らず、ケブラー手袋着用で触ってしまった。通電の遮断等を行っていなかったため、損傷状況によっては感電の恐れがあった。
4. 体験した事例の原因・理由	太陽光発電設備に関する知識が不十分であり、感電という危険があることを認識しているにもかかわらず、装備の到着を待つことなく自己判断で活動したこと。

### 【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

### 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成26年10月25日 午後0時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内：洗面所内壁上部に設置されているパワーコンディショナー
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	感電
7. 事例体験時の活動	その他:
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：調査出動で、現場到着後延焼等の確認時。
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[29]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[11]年、階級[消防士長] 同様の活動[初めて]、任務[機関員]
○当事者B	年齢[41]歳、勤続年数[23]年、現場経験年数[23]年、階級[消防司令補] 同様の活動[初めて]、任務[車長]
○当事者C	年齢[28]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士] 同様の活動[初めて]、任務[隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者B	パワーコンディショナーの確認、 家人から状況録取、関係機関に連絡等	
経過2	当事者A、C	洗面所内の延焼・損傷状況の確認	
経過3	当事者B	通信指令室に取扱説明書と耐電手袋等 の必要資機材を要請	
経過4	当事者A、C	浴室内の延焼・損傷状況の確認中に天井裏の直流配線に 触れる	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



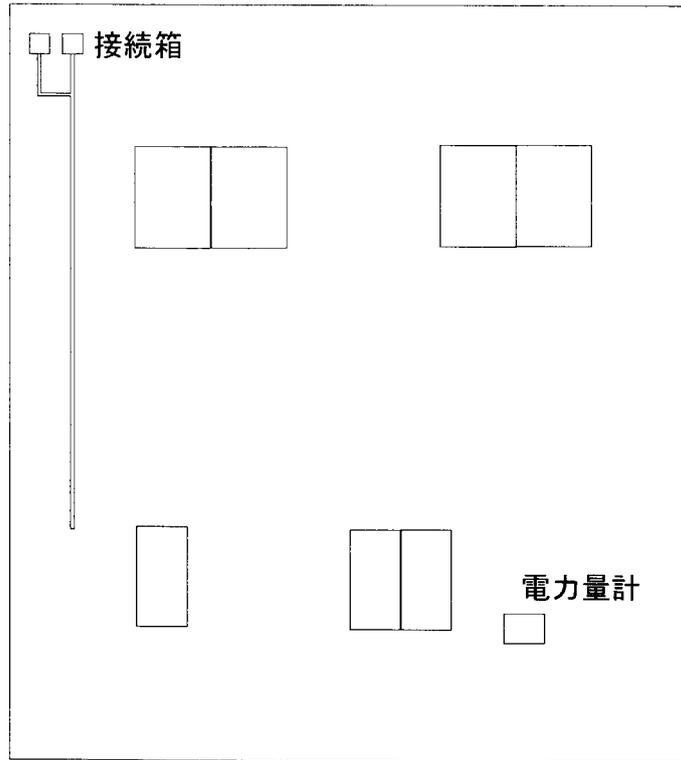
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

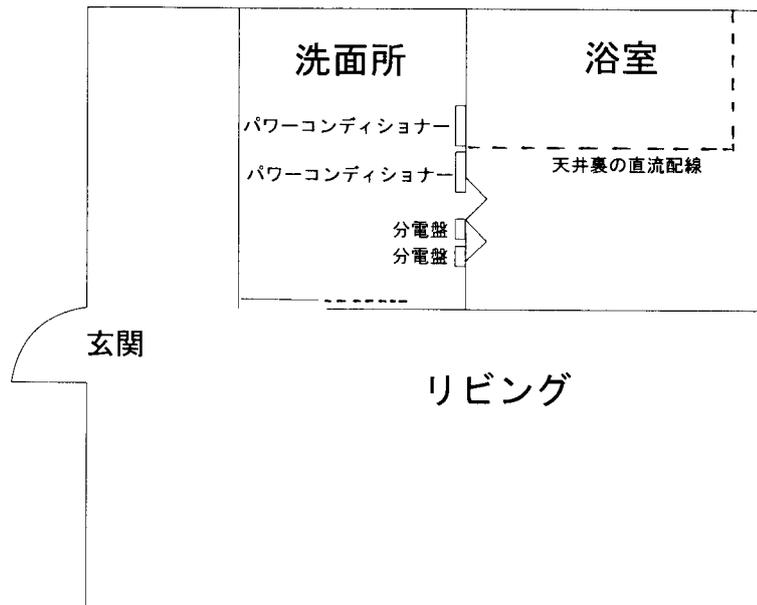
○活動環境の対策について

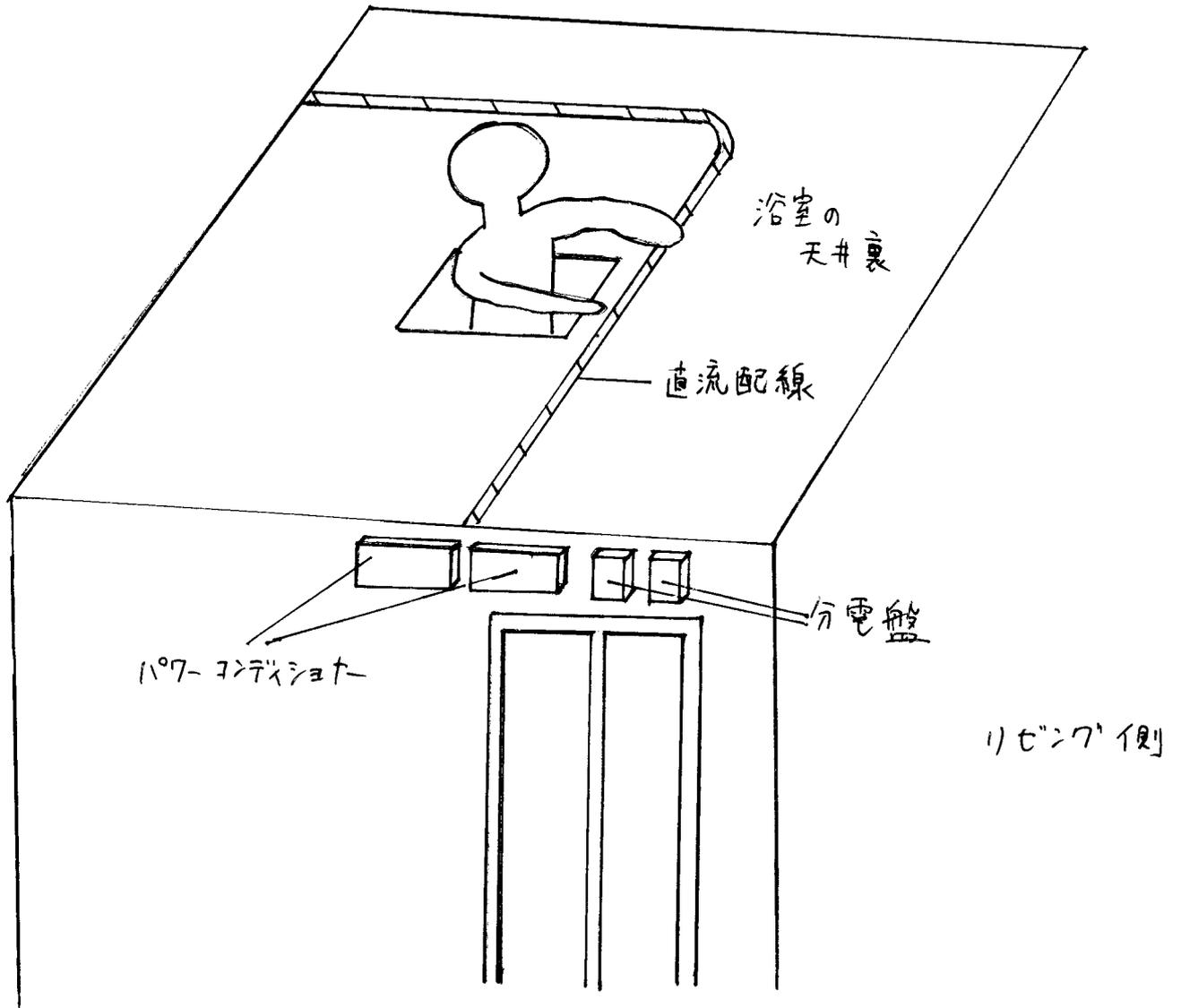
○指揮・情報伝達の対策について

# 北壁面



# 平面図





浴室の  
天井裏

直流配線

分電盤

パワーコンディショナー

リゼンク側

洗面所側